

次期5か年計画(これからの10年)に関する論点整理

これまでの10年

これまでの10年の取組みにおいては、施策導入時に危惧されていた様々な個別の課題に、重点的・集中的に取り組んできた。

森林の保全・再生

- 手入れ不足により深刻な荒廃が進んでいた水源地域の私有林について、重点的、集中的な対策を行い、着実に整備が実施され、荒廃の解消が進んだ。(私有林の76%が公的管理等による整備)
- 多様な手法によるシカ捕獲により、生息密度が低減した地域では、下層植生が回復するなど効果を挙げつつある。

河川・地下水の保全・再生

- 目標を上回る事業進捗により、河川水路における自然浄化対策が進展。
- 地下水汚染箇所に対し、水質浄化装置を設置し、地下水の浄化を図るとともに、水位や水質のモニタリングを継続して実施している。

水源環境への負荷軽減

- ダム集水域の幹線道路周辺を中心に、公共下水道整備が進捗。
- 丹沢湖上流域における一般家庭の浄化槽整備は概ね完了。

水源環境保全・再生を支える取組

- 県民会議及び2つの専門委員会と3つの作業チームにより、施策の点検・評価、施策の広報・広聴、市民事業支援制度の運営など県民参加の仕組みを推進。

これからの10年

事業を実施することで明らかになった課題や、施策導入時にはなかった新たな課題への対応。

森林の保全・再生

高標高域の県有林の土壌流出

スコリア層の流出

公的管理終了後の状況

水源環境への負荷軽減

下水道整備困難箇所の増加、
合併処理浄化槽への転換促進の課題
(ダム集水域では生活排水処理100%の達成困難)

ダム下流での生活排水による環境負荷

水源環境保全・再生を支える取組

施策及び水源環境保全税に対する
認知度の低さ

10年後～ めざす将来の姿 ＜ビジョン＞

施策大綱で示されている将来像

森林の保全・再生

- ・水源かん養をはじめとする公益的機能の高い森林づくり

河川の保全・再生

- ・県民の水がめにふさわしいダム湖の水質
- ・自然浄化機能の高い河川・ダム湖
- ・貯水機能の高いダム湖

地下水の保全・再生

- ・持続可能な地下水利用
- ・地下水汚染のない水道水源地域

水源環境への負荷軽減

- ・水質水量両面における負荷の軽減